



かがやけ憲法

キャラバンニュース

- ★北海道→青森→岩手→秋田→山形→宮城→福島→新潟→群馬→栃木→茨城
- ★山口→広島→島根→鳥取→岡山→香川→愛媛→高知→徳島→三重→岐阜→愛知→静岡
- ★鹿児島→熊本→長崎→佐賀→福岡→大分→宮崎→兵庫→大阪→和歌山→奈良→京都
- ★福井→石川

秘密保護法採決強行に抗議！

●11/26 栃木(1日目)

弁護士会会長と初面談、秘密保護法案廃案へともにたたかう決意を固める

北海道、東北を経て関東に入ったキャラバンは11月26日、宇都宮市内での行動に取り組みました。この日は、栃木県庁、宇都宮市役所、栃木県弁護士会を訪ね、憲法にもとづく住民の暮らし、労働者の雇用を守る地方自治の実現などを要請しました。

要請行動には、栃木県労連からは阿波議長、武藤事務局長ほか2人、全労連からは黒田常任幹事が参加しました。

栃木県弁護士会では、橋本賢二郎会長、藤本利明副会長、田中真副会長が対応しました。県労連として弁護士会会長との面談は初めてです。

阿波議長が感謝の言葉をのべ、武藤事務局長が訪問の趣旨を伝え、憲法を守り、憲法を暮らしに生かす運動での共同した取り組みを呼びかけました。また、この日、衆議院特別委員会で採決が強行された秘密保護法にかかわって、栃木県労連としても廃案に追い込むためたたかいを強める決意がのべられました。

これに対して、橋本会長は、秘密保護法案の採決強行にあたって、栃木県弁護士会として抗議声明を発表する準備をしていることを紹介し、「みなさんと思いは同じだ。安倍政権に怒りの声をあげる必要がある。法律は、戦争の道への外堀を埋めるものであり、成立が強行されても、表現の自由を守るためにたたかい続けたい」と、政府の暴挙を厳しく批判しました。

また、藤本副会長からは、「裁判になっても、何が秘密なのか関係者にも知らされない。そのことは、正当な裁判を受ける権利が国民に保障されないことであり、弁護士も十分な弁護活動ができなくなる」と問題点が指摘されました。

懇談では、法案に反対する運動について、弁護士会として大勢の人を集めた集会などがなかなか開けず、社会的にアピールする運動に苦慮しているとの率直な意見も出されました。これに対して、今後ともあらゆる場面で

お互いに協力していく必要性も確認されるなど、「憲法キャラバン」が結びつけた2団体間の有意義な懇談の場となりました。

栃木県庁では、産業労働観光部労働政策課の伊藤満課長、小野寺博明課長補佐ほかが対応、また、宇都宮市役所では、経済部商工振興課の岩田昭課長補佐、熱海博一係長ほかが対応しました。

栃木県庁の伊藤課長は、「みなさんの要請は受けとめたい。憲法はすべての法律の根本だ。栃木に住んで良かったと思われるような街づくりをめざしたい。その点では、みなさんと思いは同じだ」とのべるなど、自公政権が地方切り捨てをねらうなか、憲法にもとづく住民本位の地域づくりへ意見交換ができました。

●11/27 栃木(2日目)

栃木県北地域の震災と放射能被害の実態を再認識

栃木でのキャラバン行動は2日目となり、27日は県北地域を駆けめぐり、大田原市、那須塩原市、矢板市に要請に入りました。栃木県労連からは鈴木副議長、武藤事務局長ほか自交総連2人、全労連からは黒田常任幹事が前日につづいて参加しました。

那須塩原市では、総務課の伴内照和課長、稲見一志課長補佐が対応し、雇用問題から地域経済、福島原発事故による放射能被害まで、懇談は幅広い分野におよびました。

武藤事務局長が要請書を手渡し、訪問の趣旨を伝えると、伴内課長は、市内のブリジストンタイヤ黒磯工場が、市にも十分な説明がないまま急きょ閉鎖され、1,300人の雇用を確保するため市役所に雇用推進室を新設して対応していること、また、福島原発事故の風評被害で観光客が6割に減り、除染費用だけで100億円もの予算が使われたことなどを紹介しました。



那須塩原市は、市独自の財政で小学校入学後も子どもの医療費を無料にしてきており、伴内課長からは「憲法にもとづく地方自治の実現は重要であり、今後とも市民目線にたった行政をめざしたい」との決意も語られました。また、「アベノミクスに期待してきたが、地方にはその効果がまったく見えてこない」との話も出され、地域経済の活性化は急務であることが共通の認識となりました。

この日に訪れた大田原市役所は、東日本大震災で市庁舎が被災し、今でも仮庁舎で住民サービスをつづけています。このように、栃木県北地域では、公共の施設や学校などにも震災の被害がおよび、加えて原発事故による放射能汚染と風評被害が、住民生活や自治体財政に大きな影響を与えています。

県北各地での要請・懇談を通して、東京電力や国の責任を明らかにさせ、自治体への支援を強めていく必要があることを、あらためて確認するキャラバン行動となりました。

2日間の行動では、自治体要請などの合間をぬって、キャノンなど大企業が集中する清原工業団地や野崎工業団地をキャラバンカーで回り、テープによる流し宣伝で労働者派遣法の大改悪反対などを工場労働者に訴えました。

原子力開発発祥の地、東海村でじっくりと懇談

北海道を出発したキャラバンカーは11月28日、茨城に入りました。この日は、水戸市市役所を皮切りに、東海村役場、大洗町役場を訪問し、要請・懇談しました。行動には茨城労連から石引議長、榊原（自治労連茨城県本部委員長）、松崎（茨城医労連委員長）の各副議長、丸山事務局長、茨城県国公から渡辺書記次長が参加、全労連からは黒田常任幹事が栃木から引き続き参加しました。

東海村での懇談には、山本利明総務部長、佐藤幸也政策部長、久賀洋子福祉部長、菅野博経済環境部長、黒田正徳建設水道部長、佐藤富夫教育次長ら幹部がずらりと顔をそろえ、幅広い分野にわたって1時間を超える懇談となりました。

東海村は日本で初めて原子力の火が灯った村であり、現在も、日本原子力研究開発機構、日本原子力発電東海発電所、東海第2発電所などが村内にあります。その点で、懇談では、原発問題をめぐってさまざまな意見が交わされました。

佐藤政策部長は、「事故になっても住民の生命を守ることが第一だ。ただ、政府の原子力行政に対する私たちの考えは複雑だ。村上前村長もいろいろな機会に『脱原発』を主張していたが、『反原発』の立場ではなかった。簡単に一言で言い表せない複雑さがある」とのべ、東海村として、現在、放射線の医療技術への活用などを推進しており、将来的には研究都市にしていきたいとの抱負も語られました。

この他、水戸市では横須賀好洋市長公室秘書課長、大洗町では雨澤庸夫（のぶお）町長公室長、大部英俊総務課自治振興係長が対応、それぞれ約1時間にわたって意見交換しました。

水戸市役所の庁舎は東日本大震災で被災し、市長室も市民会館に仮住まいで、その市民会館もいずれ撤去しなければならないとのことでした。また、巨大津波におそわれた大洗町では、被害が200億円にのぼったことや、原発事故による風評被害もあって、主力産業である観光収入が被災後に約7割も減ったことなどが、雨澤公室長から明かされました。

こうした震災の被害のもとでも、茨城県内の自治体がさまざまな街おこしで努力をつづけ、懸命に地域を立て直そうとしている姿が伝わってきました。

これら自治体への要請の合間をぬって、大型店が建ち並ぶ「ひたちなかジョイフル」にキャラバンカーをとめて宣伝し、買い物客にむかって、秘密保護法の廃案、消費税増税中止、社会保障の拡充など、憲法にもとづいて住民の暮らしを守る施策の実現を訴えました。

また、1日目の行動の締めくくりに、18時からはJR水戸駅前の歩道橋で宣伝・署名行動に取り組み、チラシやポケットティッシュ、憲法キャラバン風船を配りました。夕闇がせまるなかでしたが、風船を目にした子どもたちや学校帰りの女子高生らが珍しそうに近づき、署名にも次々と協力してもらうなどにぎやかな宣伝行動になりました。宣伝行動には、県医労連、県国公、自治労連、生協労連などから20人が参加しました。

なお、その後、茨城労連の仲間は、秘密保護法を作



らせないネットワークいばらきが緊急に呼びかけた「怒りのキャンドルナイト」に結集し、水戸駅北口から大工町まで繁華街をデモ行進して、秘密保護法案の廃案を訴えました。行動には150人が参加しました。

●11/26 岐阜(2日目)

岐阜キャラバン2日目の11月26日は、関市、美濃加茂市、可児市、多治見市をまわり、市役所前等で「今、秘密保護法が強行採決されました！」と、緊迫した国会の動向を場所ごとに紹介しながら、「秘密保護法を廃案に」と訴えました。

可児市役所前では、平野県労連事務局長が秘密保護法の危険性を紹介しながら、「岐阜でも28日に岐阜弁護士会が初めて秘密保護法反対の昼デモを行うなど、反対の声が広がっています。希代の悪法を廃案にさせましょう」と訴えました。

また、県国公の沢村県労連副議長は、国公労連の憲法改悪反対の取り組みを紹介し「秘密保護法を廃案に」と訴えるとともに、憲法25条をいかして「健康で文化的な最低限度の生活を営む」ことができる社会を実現しようと訴えました。

さらに、湯上県労連幹事は、元小学校の教員として、また女性の立場で、「子どもたちの明るい未来のためにも憲法を守ろう」、「世界の各国の憲法改正は様々な権利を盛り込み、国民の権利を守ろうとするもの。しかし、わが国の改正は国民の権利を奪うものだ」と批判し、秘密保護法の廃案を訴えました。

全労連の高橋副議長は、かがやけ憲法キャラバン行動を紹介し、キャラバンで訪問した沖縄・宜野湾市とのオスプレイ・基地問題で懇談したことを語り、「今、日本の平和が危ない。憲法9条が変えられれば、すぐに戦争できる軍隊づくりもすすめられている。安倍首相の憲法改悪をストップさせよう」と訴えました。

多治見市での駅前での宣伝では、高齢の女性二人とデパートの若い店員が、「安倍さんはあぶないね。がんばって」等と励ましてくれました。

ドライバーさん紹介 鴻巣 芳春さん

かがやけ憲法キャラバンは、宣伝カーのドライバーの方たちに支えられ、全国を走りまわっています。

北海道から運転をつづけている鴻巣芳春さんは宮城で被災し、閑上に住んでいた弟さん夫婦を、津波で亡くされたそうです。

今は自交総連の組合員として解雇撤回でたたかっています。今日も安全運転でがんばってくれています！ありがとうございます！

